



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東テック北海道株式会社 本社新築工事	階数	地上4階
建設地	札幌市白石区本通19丁目北708-4,708-39	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	50 人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
竣工年	2019年11月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,809 m ²	評価の実施日	2019年7月30日
建築面積	1,198 m ²	作成者	
延床面積	2,631 m ²	確認日	2019年8月7日
		確認者	

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 91%

③上記②以外のオンサイト手法 91%

④上記オフサイト手法 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価
建物全体の[BEE][BEIm]= 0.88

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合 国道12号線から建物を後退させ圧迫感の減を考慮した。	A 省エネルギー 建物は矩形を意識し省エネルギーに努めた。
B 省資源等 使用する建材は一般普及品を使用し、省資源に努めた。	C 緑化 札幌市で定める緑化率以上の緑化をする。
	D 雪処理 駐車場の雪は随時搬出する。

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
(仮称)東テック北海道株式会社 本社新築工事		欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.38		-	3.5
1 音環境				3.9	0.15		-	3.9
1.1 室内騒音レベル			通常の事務所であり、騒音は少ないと考えている	4.0	0.40		-	
1.2 遮音				3.8	0.40		-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能			界壁は乾式でグラスウールを充填している	5.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音			天井等に吸音効果のあるボードを使用している	4.0	0.20		-	
2 温熱環境				3.5	0.35		-	3.5
2.1 室温制御				4.1	0.50		-	
1 室温			冬季でも20度以上を確保できるようにしている	5.0	0.38		-	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性			ゾーン別に制御が可能である	4.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.1	0.25		-	3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30		-	
1 昼光率				3.0	0.60		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00		-	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度			事務所として必要な照度を確保している	4.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境				3.7	0.25		-	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質			全体的に☆☆☆を使用している	4.0	1.00		-	
4.2 換気				3.6	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.33		-	
2 自然換気性能			各事務所に自然換気が可能な開口部を設けている。	4.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮			空気取り入れ開口は敷地周囲を勘案して設けた。	4.0	0.33		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			喫煙ブースを設けた	5.0	0.50		-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.3	
1 機能性			3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画			3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		十分な広さの休憩スペースを設けている	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画			3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理を計画的に配慮した	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		点検口等を積極的に設置し、維持管理を確保した	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	耐久年数30年以上の材料である	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	耐久年数20年以上の材料である	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	20年程度	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	20年程度	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源	20年程度	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		垂鉛鉄板を使用している	4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上である	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPIが0.8以下である	5.0	0.17	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.88 -	2.6	0.52	-	-	2.6
4 効率的運用			3.0	0.21	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	2品以上採用した	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上げが容易に分別可能である。再利用できるユニット部材を使用している	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	省資源	CO2排出は一般的な建物と同等である	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車スペース、荷捌きスペース確保、導入口の配慮	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 資源 処理	ゴミの多種分別回収が可能なスペースを確保している	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		公害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.2	BEEランク	B ⁺
建物名称	(仮称)東テク北海道株式会社 本社新築工事				
建物用途	事務所・工場				
延床面積	2,630.7 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p>
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下</p> <p>★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下</p> <p>★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下</p> <p>★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下</p> <p>★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 22.9 最低点 6.6)				合計		14.2点 / 22.9点	
Q1 温熱環境	スコア	0.5 / 0.9	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.3 / 3.3		
Q1 光・視環境	スコア	1.2 / 2.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.3 / 2.1		
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	5.4 / 10.4		
			LR1 効率的運用	スコア	2.5 / 4.2		
B 省資源等 (最高点 23.8 最低点 7.7)				合計		15.5点 / 23.8点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.1 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 / 2.4	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1 / 1.9		
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.3 / 5.0		
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.8 / 4.4		
C 緑化 (最高点 16.0 最低点 3.2)				合計		8.6点 / 16.0点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.9 / 4.8	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.8 / 6.3					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 / 2.4					
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		1.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数